

ザ・クインテッセンス／2011. 9月号

○根管充填材除去のテクニックを学ぶ (寺内吉継)

*Retreatment では根管充填材の除去が完全にできるか否かが感染根管治療の成功に大きく影響を与える。もちろん、根管充填材除去後、感染部にアクセスし取り除くことが成功と失敗の「分かれ道」となることはいうまでもない。ガッタパーチャ自体も感染している可能性があることから、古い根管充填材を根管内に放置するのは危険である。筆者は、ガッタパーチャ除去の知識とテクニックを機械的除去、科学的除去、外科的除去に分け、臨床例も豊富に解説している。また処置に使用する器具・薬品なども使用法とともに示してくれているのは在り難い。日常臨床で再根管治療にあたっては大変役立つ内容である。

○低侵襲な治療のために生かす MTM—全 4 回— (渡辺隆史)

*前歯部の MTM は、アンテリアガイダンスの改善を目的とする場合と、歯周組織の改善を目的とする場合、そして審美性の改善を目的とした 3 項目に大別できる。この回では、アンテリアガイダンスと歯周組織の改善を目的とした MTM について、その種類とテクニックを解説している。4 回にわたり部位別に臨床上的ポイントを簡略に示している。

日本歯科評論／2011. 9月号

○＜特集＞全身疾患を有する患者の歯科治療

— より安心・安全な臨床的アプローチを求めて — (寺井陽彦 松浦信幸 他)

*全身疾患のある患者さんが来院したら・・・。高齢社会が加速している現在このような機会は増加していくと思われます。全身疾患がどのような状態で、歯科治療を行うにおいて何を注意しなければならないかなどをまとめ、特に糖尿病と抗血栓療法患者について詳しく解説しています。また緊急時の対応についても述べています。是非ご一読されることをお勧めします。

○東日本大震災における歯科救援活動 (佐々木啓一 他)

*今年の 3 月 11 日に起こった東日本大震災。身元確認作業や歯科治療支援などで歯科も活躍し、岡山県からも 10 名の先生が行かれました。震災直後より歯科はどう活動したか、どう変わってきたか、そしてもしこのような大災害が今後起こるとしたら我々はどう対応すべきか。我々も他人ごとではなく考えさせられる内容です。

デンタルダイヤモンド／2011. 9月号

○実践歯学ライブラリー 暫間ミニインプラント

困難な治療を成功に導く新次元の治療法 (永田睦 迫田賢二)

*インプラント埋入後の治療期間において、歯列の機能と形態を維持するために開発された暫間ミニインプラントは、インプラント治療のみならず、その他の治療にも応用されている。本稿では、インプラント治療の実際や、重度歯周病罹患歯をミニインプラントにて加強、温存しつつ、欠損部にインプラントにて欠損補綴した症例、再植歯の固定に応用した症例などを、写真、レントゲン写真、CT 像を用いて説明している。

○歯内治療の勘所とトラブルシューティング⑨歯内療法後の失敗しない歯冠修復処置 (石井宏)

*筆者は根管治療後の修復処置において、歯内療法的な側面から、歯冠側からの細菌漏洩と歯根破折への配慮が重要と考えている。処置歯の歯冠崩壊の程度により、支台築造なしの修復、鑄造ポストによる支台築造、既製ポスト(金属、ファイバー)による支台築造に分類している。また、築造時のラバーダム防湿や仮封の封鎖の重要性について強調している。

歯界展望／2011. 9月号

○動画と一緒に学ぶ、歯周外科の基本手技とポイント 歯周組織再生療法 (安東俊夫)

*この連載の特徴は、医歯薬出版のホームページから簡単に、本文の中の症例の歯周外科手術の動画を再生して見られることである。動画も比較的鮮明で、本文中のカラー写真と対比してみると、実際の術式が分かりやすいのではないかと思う。

○根尖病変を治療に導く③ 感染根管処置の盲点—根管の水平的拡大を中心に— (倉富 覚)

*根管充填を評価する時に、X 線写真上でのオーバー根充が悪いとか、いやオーバーの方が予後が良いとかという議論を耳にする。今回はそれらの議論がいかに意味がないことで、大切な事は水平的な拡大が確実になされているかどうかだということと、根管の形に沿った拡大を意識して行うことだとうたっている。